



- NPO法人 大阪環境カウンセラー協会 副理事長
- CEAR登録 環境主任審査員
- 地球環境関西フォーラム 戦略部会委員
- 大阪産業大学、近畿大学、鳥取環境大学 講師

吉村 孝史

荒川化学工業(株)の「環境・社会報告書2012」で、大いに注目することは、「環境に関する長期方針」を環境保安委員会策定されたことです。従来は中期計画を繰り返してゆく形ですが、2012年に終わるのを契機に、2020年を達成目途とする長期的視点に立ち、環境改善を積極的に努めていくものです。環境対策活動は、企業業績によって、ゆったりやらなかったりするものではなく、ある意味では業績にかかわりなく、実施せねばならぬことがあります。その内容は何かということをはっきりさせたということは評価できません。この環境長期方針をベースに環境取り組みの一層の具体化が期待されます。

私はパナソニック(株)在職時、2001年に、当時としてはあまり例のなかった2010年をゴールとした長期環境計画に取り組んだ経験があります。3年の中期でも不確実なのに、10年の長期は考えられないという意見も出ましたが、環境対策活動は、経済状況や経営状況もあるが、環境対策はできるだけ継続的に取り組むことの大切さを理解していただきました。

さて、同じく注目すべきは、東日本大震災の教訓を踏まえ、全社BCP(事業継続計画)の構築です。大阪工場内に、被災した小名浜工場と同じ光硬化型樹脂の生産ラインを新設

した。つまり、小名浜・大阪の二極体制を取って、サプライチェーンのリスク分散を行ったのです。更に、価格高騰のリスクを抱える主要原料のロジンの安定確保をはかる立場から、将来は植林することも視野に入れて、中国における松林の管理に取り組み始めたことは、リスク対応と生物多様性の観点もあわせ評価できます。

さらに経営を支えるまでに成長した環境配慮製品については、本来琥珀色の樹脂の無色透明化をめざし超淡色ロジン(パインクリスタル)の開発と製造コスト対応にも取り組み、被災した小名浜工場での一貫生産の開始にこぎつけたことは、復旧をこえた復興のすばらしい事例になっています。

なお、全体的に写真・グラフを多用し、見やすい構成になっています。また、現場として海外工場をクローズアップした取り組みはグローバル性を訴える上でも効果的です。

さて、当レポートの報告内容について提案したいことはCSRについてです。

■CSRの国際基準であるISO26000が発行されたことに伴い、ますます重視される環境・社会報告書の社会的貢献の部分の扱いにより注力すべきです

■「ダイバーシティ」について「人種や国籍にとらわれない人材活用」は取り上げられているが、もっと身近な、例えば「女性が活躍しやすい企業風土づくり」は取り上げられていません。この件については、実際は取り組んでいるとしても、はっきりとした形で取り上げないと評価されません。このたび、ISO26000の中核主題の消費者課題の原則の中に、「女性の社会的地位の向上」が追加されています。

■「地域社会との関わり」のなかで「学術、文化、地域貢献」とされていますが、文化の部分が見当たりません。文化支援は活動の重要なポイントです。

第三者意見を受けて

吉村孝史様には、2010年から第三者意見をいただいておりますが、本年も貴重なご意見・ご指摘をありがとうございました。

本年度第2次中期経営計画終了に際し、2020年を達成目処とする長期方針に基づき次期中計目標を決めたことを評価いただきました。環境保全改善活動は、継続的かつ着実な活動を実施していくことの大切さを認識し、取り組んでいきます。

当社は、早くから資源循環型原材料のロジンを有効利用した地球環境にやさしいもの作りを追求し、企業活動における環境負荷の低減を進めてきました。今回の特集「製品のチカラ」でお伝えした超淡色ロジンの新規製造設備において、東日本大震災での被災を乗り越え、小名浜工場で一貫生産を開始したことを評価いただきました。超淡色ロジンは、従来のロジンと比較して不純物が少なく熱に対して安定性が高いことから、これまで応用困難であった用途に使用可能となったことで、環境配慮型製品で社会に貢献していきます。

また「現場のチカラ」では、グローバルで活躍する従業員の声を紹介することで、今後も環境対応型製品のグローバル展開を通じて、地球規模での環境保全への貢献を目指す当社の方針をご理解いただけたものと考えています。

今回、吉村先生にはCSRについて、ダイバーシティ、文化支援活動に対する取り組みにも注力するようご指摘いただきました。この貴重なご意見を謙虚に受け止め、環境にやさしい新技術・新規事業の創生を通じ、グローバル規模で社会に貢献できる企業を目指していきます。加えて、当社の事業活動を多様なステークホルダーに向けわかりやすく伝えるように充実した環境・社会報告書作りを進めます。今後もご支援、ご鞭撻の程お願い申し上げます。



荒川化学工業株式会社
常務取締役
環境保安担当
谷奥 勝三